

章	中項目	小項目	番号	御意見等	主な反映箇所	反映のポイント		
第1章 「高松市MICE推進 戦略(仮称)策定の 意義	4 本市のMICEの 現状と課題	(1)「高松市MICE 振興戦略」策定にあ たっての背景	1	・MICE振興をどのように活用するのか。	p.8 ①「第6次高松市総 合計画」及び関連す る計画	MICEの誘致・開催は、地域への経済波及効果、交流人口や観光客 の増加、ビジネス・イノベーションの機会の創造や都市のブランドイ メージの向上など、まちづくり全体に大きな効果があります。 本市としては、『第6次高松市総合計画』に掲げた目指すべき都市像 である「活力にあふれ 創造性豊かな瀬戸の都・高松」を実現するた めに、MICE振興を活用します。		
			2	・主催側に「高松を選ぶ理由」をはっきりと意識してもらうためにも、 <b>高 松市という街のブランディングや、高松らしさ、魅力という部分をどう発 信していくのか。</b>	p.10 ②MICE開催にお ける本市のポテン シャル	複数の施設が集まるサンポート地区を中心として、ウォーターフロント の東西に広がる「屋島」を始めとする観光資源、高松空港へとつなが る南北のライン「高松Tゾーン」を重視します。 その中で <b>本市のシンボルである「屋島」の多様なポテンシャルを活用 することで、高松らしさ・魅力を発信していきます。</b>		
		(2)本市のMICEの 現状	3	・MICEを誘致する場所としては、ウォーターフロント。参加者が入って くるルートを考えて縦のラインも非常に大事(「高松Tゾーン」)。 ・ <b>屋島のユニークベニューとしての利用価値も出てくるのではないか。</b>				
第2章 基本戦略	1 本市の目標とす るMICE	(1)MICEの形態 (2)MICEの分野 (3)規模 (4)高松らしいMIC Eの創出	4	・MICEの行動指針の必要性を感じる。MICE振興に対する考え方の 整理が必要なのではないか。	p.17～19 (1)MICEの形態 (2)MICEの分野 (3)規模 (4)高松らしいMIC Eの創出	本市の目標とするMICEを明記することで、高松市としてのMICE振 興に対する考え方を整理しています。  <b>これまでのMICE誘致を強化するとともに、主催者目線での対応、本 市独自のMICEコンテンツや地域特性をいかして、MICE開催に当 たっての付加価値を生み出すことにより、誘致競争力を高めていきま す。</b> また、MICEの開催により、ビジネス・イノベーションの機会の創造や 人材育成につなげるなど、MICEの開催効果の最大化を図り、「高松 らしいMICEの創出」を行っていきます。		
			5	・ <b>高松市としてのコンセプト作りが重要。</b>				
			6	・「従来型のMICEではなく…」というところが、従来型のMICEを否定 しているように見える。「 <b>従来型も含めて…</b> 」という言い方の方がいい のではないか。				
			7	・商業分野のイノベーションのためのツールとしてMICEを位置づけら れないか。				
			8	・他都市との横並びではない、香川・高松の強みを活かしたMICE振 興が必要ではないか。				
			9	・これまでのMICE誘致活動に加えて、新たなE分野の商品企画・開発 が必要ではないか。 ・高松市文化振興基本条例による本市の目指すべき都市の姿として も、「文化芸術を通して、市民が生き生きと心豊かに暮らせるまち、高 松の実現」とあるので、基本戦略の中にE分野も一つの柱とすること で、市民を巻き込み機運醸成にも繋げやすいのでは。				
		(3)規模	10	・Mで商談に関わる小規模会議支援もターゲットとして検討してはどうか。 ・コンベンション施設整備のみならず、商店街内の利便性の高い空き 店舗の活用や情報収集・提供、斡旋など金や労力をそれほどかけず にやれることもあるのではないか。多数の小規模商談で将来の大規 模コンベンションの種をまくやり方もあるのでは。			p.17 (3)規模	サンポート地区のMICE施設である「高松市文化芸術ホール」や「か がわ国際会議場」などの収容能力から、500人～2,000人規模のMIC E誘致に重点をおきます。 一方で、「高松らしいMICEの創出」として、小規模MICEや類似MIC Eを集約することによる規模の拡大支援の検討(p.43)も行います。
			11	・香川・高松は「瀬戸内国際芸術祭」により文化芸術面において他都 市より秀でているのは事実であり、これを強みとしてMICEにおける新 しい「E分野」を開発してはどうか。 Eは「Exhibition、Event」ですがこれに、「Entertainment:エンタテイン メント」を加えた新しい分野を開発してはどうか。数万人規模をター ゲットとし、E分野に地場産業を巻き込むような事業を作り込みすばよい のではないか。			p.18 ①開催効果の最大 化	MICE開催に当たっては、本市の強みである文化芸術などの持つ創 造性をいかしながら、教育・啓発活動などの関連事業や周辺イベン トの企画、運営を進め、MICEとしての開催効果の最大化を図ることと しています。
				12				
			(4)高松らしいMIC Eの創出	11			・香川・高松は「瀬戸内国際芸術祭」により文化芸術面において他都 市より秀でているのは事実であり、これを強みとしてMICEにおける新 しい「E分野」を開発してはどうか。 Eは「Exhibition、Event」ですがこれに、「Entertainment:エンタテイン メント」を加えた新しい分野を開発してはどうか。数万人規模をター ゲットとし、E分野に地場産業を巻き込むような事業を作り込みすばよい のではないか。	p.18 ①開催効果の最大 化
12	・例えば「瀬戸内国際芸術祭」や「デジタルアートフェス」に関連付けた 会議やサイドイベントの発掘など地場産業活性化で商業・芸術をター ゲットにするのであれば、対象となる地場産業を明示してもよいので は。							

章	中項目	小項目	番号	御意見等	主な反映箇所	反映のポイント
第3章 「高松市MICE振興 戦略(仮称)」の重 点施策	1 受入環境の整備	(3)アフターコンベンション	13	・様々な機会を通して、瀬戸内の魅力を含めた高松市の強みを、外からの人に(観光客も含めて)印象付けることができ、それが次の機会に繋がっていくのであれば、価値の高いことであると感じる。	p.26 (3)アフターコンベンション	アフターコンベンションにて、本市独自の観光プランや回遊を促す旅行を提案することで、観光都市としてのブランドイメージを向上させ、さらにリピーターとして再訪につながるような仕組みづくりに取り組むこととしています。
		(5)MICE商品開発	14	・瀬戸内海を楽しんでいただくために船上パーティーの商品開発(官民連携による会場船の就航・運航)も、近接他都市とは違った商品となるのではないかと。	p.28、29 ②エクスカージョンの開発 ③ユニークベニューの開発	②エクスカージョンの開発 ③ユニークベニューの開発 の際の1つの案として検討します。
	2 誘致強化	(1)誘致推進体制	15	・主催者の意見を反映して検討できる体制を作り、継続的な取り組みをするべきではないか。	p.32 ①MICE開催の主催者への誘致活動 ②誘致における効果的な連携	MICE専門の窓口と専門の担当者の設置を検討し、高松観光コンベンション・ビューローや香川県MICE誘致推進協議会と連携して、誘致活動を実施することとしています。 また、誘致専任担当の確保、育成、スキルアップ、グローバル対応や高松観光コンベンション・ビューローの体制強化などに取り組むこととしています。
			16	・大学の先生方に、「高松市で開催したい」と手を挙げてもらうことが大事だが、先生方も研究が忙しく、開催の負担も大きい。 ・主催者の方々(学会だと先生、協会とかだと主催の本部や役員をされている方)を見つけるのも必要で、そういった方々の手を取ってあげる組織作りになれば。		
			17	・今後を見据えた高松観光コンベンション・ビューローの人材育成計画のようなものも必要。		
			18	・民活(民間主導による実行委員会へ行政も参加)を中心にすればどうか。		
	3 MICE振興のための産官学連携	(1)MICE振興のための連携	19	・他地域の大学機関とMICE誘致連携を締結した後の波及効果などを検討する機会が必要ではないか。	p.40 (1)MICE振興のための連携	MICEを推進する都市では、MICEコンテンツを多く持つ地域の大学とMICEの誘致から振興に協力するための包括協定や契約を締結する例もあることから、これらの波及効果も検証しつつ、検討していくこととしています。
			(2)戦略推進の実行体制	20	・MICEを手段として利用しながら、イノベーションが生まれやすい土壌を作っていく。そのための役割分担をどうしていくのか。	p.41 (2)戦略推進の実行体制
		21		・県で検討中の誘致推進組織との関係・役割分担を明確にし、連携を図って頂きたい		
	4 MICEの創出	(1)高松らしいMICEの開催	22	・E分野においては、イベント業務管理士がメジャーですが、資格をもっているから事業や業務に精通しているというわけではない。「経験・場数・OJT」がもっとも重要なのでは。	p.43 (1)高松らしいMICEの開催	高松らしいMICEを開催するには、MICE市場の動向と本市の実情、MICE関連事業者の技術を調整できる人材が求められます。本市の経済界や産業界、大学や行政、市民や市民団体などとの連携や情報交換ができる仕組みを、香川県MICE誘致推進協議会と連携してつくり、人材の発掘、確保を図り、高松らしいMICEに関して経験豊富な人材を育成することとしています。
		(3)機運の醸成	23	・実際に会議を主催している有識者の生の声を聞いてみるのはどうか。 また、MICE振興に関わる関係者向けに、研修、セミナー、ワークショップ等を開催してはどうか。	p.45 (3)機運の醸成	MICEの振興が本市の成長に必要なことが市民はじめMICE関連事業者に浸透するように、研修やセミナーなどの実施により啓発活動に取り組むこととしています。
			24	・産官学市民の連携という部分で、市民の意識を変えていく必要性も感じている。		